

投与量換算表

非脱分極性麻酔用 筋弛緩剤

薬価基準収載

ロクロニウム 臭化物静注液 25mg/2.5mL
50mg/5.0mL 「マルイシ」

毒薬・処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること

筋弛緩回復剤

薬価基準収載

スガマデクス 200mg
静注液 500mg 「マルイシ」

スガマデクス 静注液 200mg シリンジ「マルイシ」

処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること

ロクロニウム臭化物静注液 25mg/2.5mL 50mg/5.0mL 「マルイシ」挿管用量・追加投与量換算表

* 原液 10.0mg/mLの場合

患者の体重

投与薬液量 (mL)		10kg	20kg	30kg	40kg	50kg	60kg	70kg	80kg	90kg
挿 管 用 量	0.6mg/kg	0.6	1.2	1.8	2.4	3.0	3.6	4.2	4.8	5.4
	0.9mg/kg	0.9	1.8	2.7	3.6	4.5	5.4	6.3	7.2	8.1
追 加 投 与 量	0.1mg/kg	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
	0.15mg/kg	0.15	0.3	0.45	0.6	0.75	0.9	1.05	1.2	1.35
	0.2mg/kg	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.8

【ロクロニウム臭化物静注液「マルイシ」の電子添文より抜粋】

6. 用法及び用量

通常、成人には挿管用量としてロクロニウム臭化物0.6mg/kgを静脈内投与し、術中必要に応じて0.1～0.2mg/kgを追加投与する。持続注入により投与する場合は、7μg/kg/分の投与速度で持続注入を開始する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、挿管用量の上限は0.9mg/kgまでとする。

7. 用法及び用量に関連する注意

7.1 作用持続時間は用量に依存して長くなるため、本剤0.9mg/kgを挿管用量として投与する際は注意すること。

7.2 持続注入により投与する場合は、筋弛緩モニタリング装置を用いて適切に注入速度を調節すること。

非脱分極性麻酔用 筋弛緩剤

ロクロニウム臭化物静注液 25mg/2.5mL 50mg/5.0mL 「マルイシ」 持続注入投与量換算表

※ 原液 10.0mg/mLの場合

※ 1時間当たりの投与薬液量です

患者の体重

単位：mL/時間		10kg	20kg	30kg	40kg	50kg	60kg	70kg	80kg	90kg
注入速度	3μg/kg/分	0.18	0.36	0.54	0.72	0.90	1.08	1.26	1.44	1.62
	4μg/kg/分	0.24	0.48	0.72	0.96	1.20	1.44	1.68	1.92	2.16
	5μg/kg/分	0.30	0.60	0.90	1.20	1.50	1.80	2.10	2.40	2.70
	6μg/kg/分	0.36	0.72	1.08	1.44	1.80	2.16	2.52	2.88	3.24
	7μg/kg/分	0.42	0.84	1.26	1.68	2.10	2.52	2.94	3.36	3.78
	8μg/kg/分	0.48	0.96	1.44	1.92	2.40	2.88	3.36	3.84	4.32
	9μg/kg/分	0.54	1.08	1.62	2.16	2.70	3.24	3.78	4.32	4.86
	10μg/kg/分	0.60	1.20	1.80	2.40	3.00	3.60	4.20	4.80	5.40




筋弛緩回復剤

スガマデクス 静注液 200mg/2mL
500mg/5mL「マルイシ」

スガマデクス 静注液 200mg/2mL シリンジ「マルイシ」

患者の体重

投与薬液量 (mL)		10kg	20kg	30kg	40kg	50kg	60kg	70kg	80kg	90kg
浅い筋弛緩からの回復	2mg/kg	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.8
深い筋弛緩からの回復	4mg/kg	0.4	0.8	1.2	1.6	2.0	2.4	2.8	3.2	3.6
緊急時の回復	16mg/kg	1.6	3.2	4.8	6.4	8.0	9.6	11.2	12.8	14.4

200mgバイアルの場合  : 1バイアル  : 2バイアル  : 3バイアル以上

200mgシリンジの場合  : 1シリンジ  : 2シリンジ  : 3シリンジ以上

【スガマデクス静注液「マルイシ」の電子添文より抜粋】

6. 用法及び用量

通常、成人にはスガマデクスとして、浅い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいて四連（TOF）刺激による2回目の収縮反応（T2）の再出現を確認した後）では1回2mg/kgを、深い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいてポスト・テタニック・カウント（PTC）刺激による1～2回の単収縮反応（1-2PTC）の出現を確認した後）では1回4mg/kgを静脈内投与する。また、ロクロニウム臭化物の挿管用量投与直後に緊急に筋弛緩状態からの回復を必要とする場合、通常、成人にはスガマデクスとして、ロクロニウム臭化物投与3分後を目安に1回16mg/kgを静脈内投与する。

7. 用法及び用量に関連する注意

7.1 筋弛緩モニターによる確認ができない場合は、十分な自発呼吸の発現を確認した後はスガマデクスとし2mg/kgを投与すること。十分な自発呼吸の発現を確認する前のロクロニウム臭化物による筋弛緩に対してはスガマデクスとして4mg/kgを投与するが、筋弛緩状態からの回復が遅延することがあるため、患者の状態を十分に観察すること。なお、筋弛緩モニターによる確認ができない場合の自発呼吸の発現を確認する前のベクロニウム臭化物による筋弛緩に対する本剤の有効性及び安全性は確立されていない。

7.2 ベクロニウム臭化物の挿管用量投与直後に緊急に筋弛緩状態からの回復を必要とする場合の本剤の有効性及び安全性は確立していない。